

# 第1回検討部会のご意見を踏まえた「美術館魅力向上ビジョン」の方向性（事務局原案）

資料1

## ご意見

- ・戦後現代美術の展示機会が少なくもったいない
- ・アール・ブリュット（＝AB）を館の軸の一つにすべき
- ・県立の美術館としては展示室が狭隘
- ・デジタル・アーカイブの構築と発信は重要

- ・滞在型の役割（長い時間楽しめる工夫）が重要
- ・物理的・心理的双方で敷居を下げる取組が必要
- ・戦略的なターゲティングが必要ではないか

- ・公園内に位置するというポテンシャルを生かすべき
- ・公園や公園内施設とのつながりを意識すべき
- ・近接する施設間のフットパスの活性化

- ・近隣の大学や福祉施設、地域等との連携を強化すべき
- ・美術館で若者などが活動できる仕掛けを考えるべき
- ・ギャラリーの使い勝手（ハード・ソフト）を改善すべき

- ・必要な施設改修はまとめて行うべき

## ビジョンの方向性

- (1) コレクションの充実・積極的活用**
- ・コレクションの拡充
  - ・収蔵庫の拡充
  - ・展示空間の拡充、ユニークな展示空間の構築
  - ・戦後現代美術を適切な展示室（天井高など）で常設展示
  - ・AB作品を常設展示するとともに、資料室等も併設し、研究センター機能を付加
  - ・デジタル・アーカイブの継続的作成および既存ポータルサイトとの連携

- (2) 子どもや若者が気軽に訪れることのできる場の構築**
- ・公園には多くの親子連れが訪れていることから、その層の滞在を促すため、キッズミュージアムを新設。隣接する県立図書館と連携してキッズライブラリーの併設を検討
  - ・入館料の見直し検討（企画展の小中生、常設の高大生、障害のある方の付き添いへの無料範囲の拡大）
  - ・キャッシュレス決済の導入
  - ・多様な来館者が美術館での時間を楽しむことのできる取組の検討

- (3) 公園との有機的なつながりの創出**
- ・体験して楽しむことのできる野外彫刻作品を公園内に設置
  - ・植栽の改良（芝生化など）
  - ・公園内および館内の案内表示、駐車場からのアプローチの改善

- (4) 外部機関や地域とのネットワークの構築・充実**
- ・地域や近隣大学等とも連携した県民参加型イベントを開催
  - ・美術館で学生などが活動できる機会（楽しめるもの等）の確保・充実に向けた検討
  - ・ギャラリーの展示環境と動線を改善。利便性の改善を検討

- (1)～(4)を支えるための既存施設の改修**
- ・既存施設の必要な改修項目を整理し、効率的な施設改修を実施
  - ・民間企業や大学、学会等との連携の充実を図るためコンベンション機能を強化

## 参考情報

- (1)
- ・DIC川村記念美術館（現代美術の展示空間の参考例（旧ニューマン・ルーム（自然採光）））
  - ・Menil Drawing Institute, Beyelerなどスイスの各地の美術館（建築や現代美術の展示空間の参考例）
  - ・Depot Boijmans Van Beuningen（見える収蔵庫の参考例）
  - ・Lille Metropole Musee d'art moderne, d'art contemporain et d'art brut（AB作品寄贈による展示棟新設の参考例）
  - ・東京富士美術館（作品情報管理の一元化の参考例）
- (2)
- ・Play! MuseumとPark, Young V&A, La Galerie des enfants, Pompidou Centre（キッズミュージアムの参考例）
  - ・ぎふメディアコスモス、安城市中心市街地拠点施設アンフォーレ（キッズ空間の参考例）
- (3)
- ・ポーラ美術館の森の遊歩道（野外空間利用の参考例）
- (4)
- ・世界各地の美術館でのSilent Discoの試み（学生などの若者が参加できる取組の参考例）